

1. 検討概要

1.1. 本検討の目的

本検討は、南海トラフ巨大地震発生に伴う石油コンビナート地域における液状化による側方流動の可能性について、堺泉北臨海地区の典型的な断面で二次元動的有効応力解析を実施し、その影響を検証する。

護岸や背後地盤の変形状況を精査することで、本地区の液状化による影響を評価するとともに、対策の概略案について検討を行うことを目的とする。

1.2. 検討範囲

本検討範囲は、図 1.2.1 に示す堺地区、泉北地区とする。

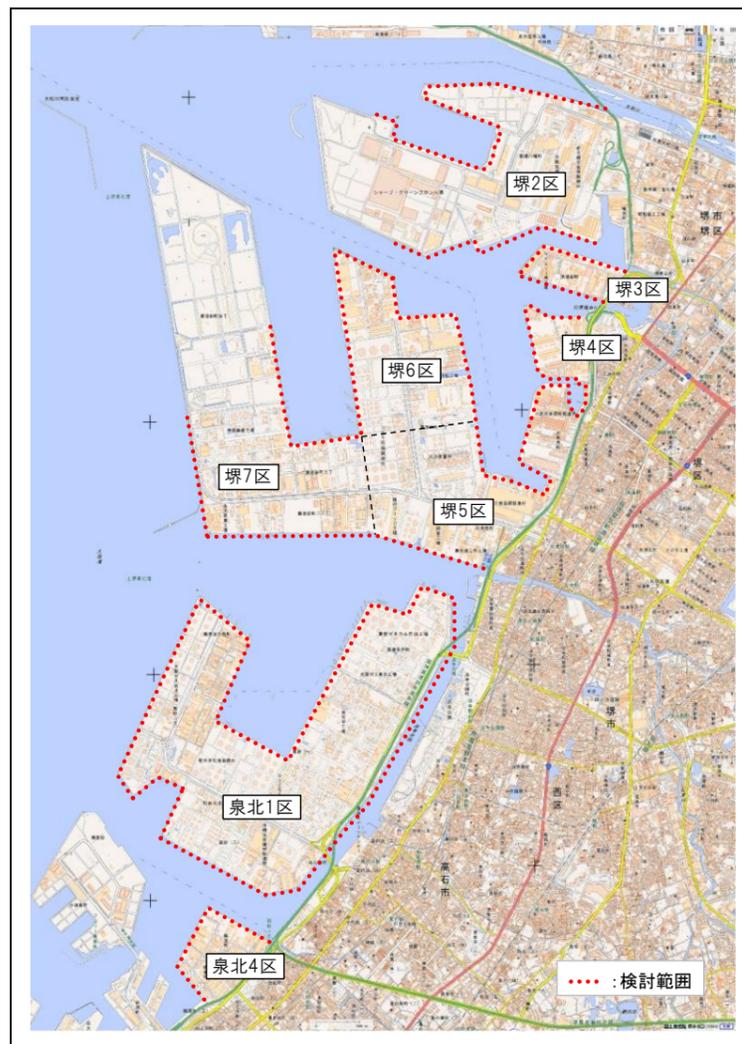


図 1.2.1 検討範囲

1.3. 検討手順

検討フローを図 1.3.1 に示す。本検討は、①堺、泉北埋立地の地盤情報データに基づく土質資料を整理・解析、②堺、泉北地区の代表的な護岸として解析断面を選定、③解析に必要な土質定数の設定、④「内閣府南海トラフ巨大地震検討会（H24.12）」に基づき当該地区の地震外力を抽出・選定、⑤地震応答解析による護岸および護岸背後地盤の変形状況の精査とする。

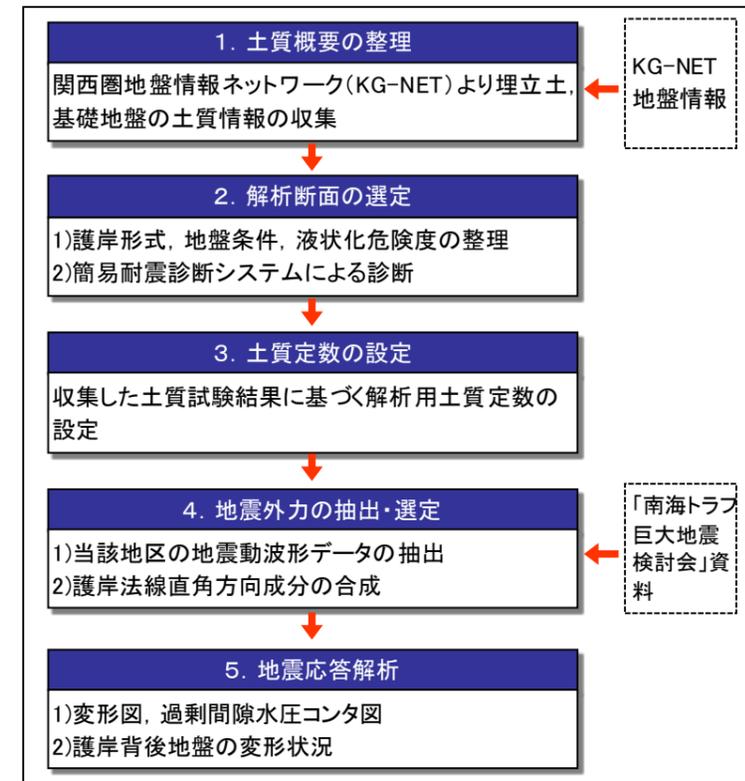


図 1.3.1 検討フロー